

講義名	イベントプロデュース論		
担当教員	柏木 千春		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

イベントとは、『非日常を設定し、複数以上の人間を集め、時間と空間を共有することで、ある目的を達成する手段として実施する行事・催事のこと』です（出所：日本イベント産業振興協会）。その目的には、企業や業界団体などが、社会や市場での利益や価値を増大させる、地域コミュニティや行政機関等が、地域の賑わいづくり、住民同士の連帯感、地域への愛着を醸成する、地域コミュニティや文化芸術団体等が、文化芸術、芸術的な祭りことなどの保護や継承をする、などが挙げられます。このように、イベントは、経済的・社会的・文化的な効果の期待できる有効な手段です。この講義では、イベントの基礎的な知識習得のみならず、直面する課題に対応したイベントの企画から運営までできるようになることを目指した内容で構成されています。講義の中では、具体的な企業の販売実績やコーポレートデータから、ある有名商品の問題点と市場機会の発見、イベントプロモーションの手法と企画立案を自ら実践してもらいます。

到達目標

講義受講により

- ・イベントの基礎的な知識（役割、歴史、マネジメント）を得ることができると。
- ・イベントの基本的な計画立案ができるようになります。
- ・課題の発見と解決に必要な情報を見定め、適切なメディアやプロモーション手法の選択、一貫性のある企画内容の立案、運営上のリスクの抽出ができるようになります。

提出課題

- ・【特定課題】プロモーション計画書の作成
- ・【特定課題】イベント運営計画書の作成

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

各回の講義終了後にGoogle Formを使った課題（理解度確認テスト）に取り組みてもらいます。次回の講義開始の際に、課題の解説を行います。

評価の基準

特定課題（60%）、各回終了後の課題（理解度確認テスト：40%）で評価します。

履修にあたっての注意・助言他

・定期試験は行いません。特定課題レポートと各回の課題（理解度確認テスト）で評価します。出席回数及び課題提出回数が10回以上ないと単位取得審査の対象になりません。

教科書					
.使用しない。					

プリント資料及び参考文献

参考文献
JTB総合研究所「イベント&コンベンション概論」2670円(税込)

授業計画

1. イベントの概念と分類
2. イベントの歴史
3. メディアとしてのイベント
4. イベントの企画と計画（イベントづくりの段階と企画・運営）
5. イベントの企画と計画（基本計画と実施計画、企画書の構成）
6. イベント計画の実践事例
7. プロモーションの活動分野と戦略
8. プロモーション・マーケティング戦略と戦術の計画
9. プロモーション手法の特徴
10. プロモーション計画実践事例
 11. イベントの制作準備
 12. イベントプログラム制作 イベントの告知・集客
 13. イベント運営の全体像 イベント運営業務
 14. リスクマネジメントと安全管理
 15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義終了後の理解度確認テストや実践的な演習課題（企業や自治体の公開データをもとに商品カテゴリー動向、商品競争動向、ブランドの特性、広告・プロモーション動向の領域から問題点と市場機会の発見を行う）に取り組んでもらいます。
各回の講義前後で、4時間程度の学習時間を要します。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、イベントを使って企業や地域が直面する課題の解決や新たな価値を自ら創り出す企画力、提案力、実行力を身につけることができます。観光業界に限定せず、多種多様な企業や団体、行政機関、地域コミュニティがイベントの企画を運営するような場面で必要となる知識や技術を習得します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

イベントプロデューサー経験あり。イベント企画作成から運営、効果検証手法などを実践的に紹介します。

備考